

令和3年度第2回庄内町文化財保護審議会 会議録

- 1 開催日時 令和4年3月15日(水) 10時00分～12時00分
- 2 開催場所 庄内町役場B棟2階 会議室2
- 3 出席委員 志田重一、菅原昭治、池田孝一、坂本慶治、佐藤 浩、澤田美代治、菅原恵美子、長南敬之、渡部厚生
- 4 事務局 教育長、社会教育課長補佐、文化スポーツ推進係長、文化スポーツ推進係主任

-----  
進行：社会教育課長補佐

- 1 開 会 社会教育課長補佐
- 2 会長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 報告(座長：会長)

(1) 令和3年度文化財保護関係事業について《資料により事務局説明》

【委員】 寄託された大川家文書はどのような内容か。閲覧できるのか。

【事務局】 内容は書簡が多い。希望すれば図書館で閲覧できる。

【委員】 前回の所在確認調査で、説明板の設置がなかったため設置を勧めたが、その後の進展は。

【事務局】 所有者から連絡はきていない。次回の審議会まで確認する。

【委員】 書簡集の在庫が大分ある。歴史文化関係者が集まるときに販売するなど、在庫を減らす工夫をしてほしい。

【委員】 発刊するときの冊数が、多過ぎたのではないか。

【委員】 庄内町の4偉人の1人として清河八郎を知ってもらうため、いろんな関係機関に贈呈するのも一つの方法だと思う。

(2) 清河八郎書簡等調査報告について

《資料により委員が説明》

- ・中山町の雪見燈籠について
- ・清河八郎関係書簡 3通
- ・「碑の俤集」白文、読み下し文
- ・「旦起私乗」(天・地・人)白文、読み下し文

【委員】 中山町の旧柏倉家にある大きな雪見燈籠は、清川の齋藤家から譲り受けたと伝えられているとのことだった。

清河八郎関係書簡のうち1通は、安政2年4月3日に、八郎が新潟から父宛に送った手紙で、母とお婆の近況を伝えている。

書簡の2通目は、八郎が父に美術品を送った報告についての内容だった。

「碑の俤集」は、清河八郎の父(雷山)の文集。この白文、読み下し文を電子化した。

「旦起私乗」は、八郎が生まれてから二十歳までの日記で、3冊(天、地、人)ある。この白文、読み下し文を徳田先生から協力を得て電子化した。

(3) その他

【委員】歴史民俗資料館について、今後どのように検討していくのか。

【事務局】R4年度第1回の審議会で説明させていただきたい。

【委員】事業報告にある弘田遺跡について、場所などわかれば教えてほしい。

【事務局】後日、場所等の資料を送付させていただく。

【委員】令和元年度3月の審議会で、大野の旧家について今後調査をしていくとあったが、どうなっているのか。

【事務局】古文書を預り、調査させてほしいと依頼したが難しいということだった。再度依頼し、次回の審議会で状況を報告する。

【委員】町指定文化財の所在確認調査について、いつ頃まで終わらせるという目途はあるか。

【事務局】未指定文化財の確認も含め、継続して所在確認調査を行う予定。

【委員】もし、今後文化財指定になりそうなものについて、情報があれば教えてほしい。調査をして後世に伝えていく必要がある。

5 その他 なし

6 閉 会 社会教育課長補佐